

問1 日本の衆議院議員選挙などで採用されている小選挙区制において、1つの選挙区から1人の当選者を選ぶ際、当選した候補者以外の者に投じられた、議席に結びつかない票のことを何といいますか。（2024年 新潟県公立入試 類似）

1. 死票 2. 比例票 3. 浮動票 4. 無効票

問2 日本の衆議院議員総選挙などで採用されている選挙制度について、その特徴を説明した文として正しいものを選択してください。（2026年 兵庫公立入試 類似）

1. 小選挙区制は、1つの選挙区から1人の代表者を選ぶため、大政党に有利になりやすく安定した政権がつけられやすい。  
2. 小選挙区制は、得票数に応じて議席を配分するため、死票が少なく多様な意見が政治に反映しやすい。  
3. 比例代表制は、1つの選挙区から1人の代表者を選ぶため、特定の候補者に個人得票が集中しやすく政権が安定する。  
4. 比例代表制は、小政党が議席を得ることが難しいため、大政党による二大政党制を促進する効果がある。

問3 日本の選挙において、各選挙区の「議員1人あたりの有権者数」が異なっている場合、ある選挙区の有権者の一票が持つ影響力が、別の選挙区のそれよりも小さくなってしまいう問題が生じます。憲法が定める「法の下での平等」の観点から議論されるこの問題を何と呼びますか。（2025年 岡山公立入試 類似）

1. 一票の格差 2. 得票率の不一致 3. 定数削減問題 4. 投票率の低下

問4 ある選挙において、議員1人あたりの有権者数が福岡県では約70万人、佐賀県では約34万人であったとします。このとき、福岡県の有権者が投じる一票の価値について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2017年 埼玉県公立入試 類似）

1. 佐賀県の有権者が投じる一票に比べて、その価値（当選させる力）が半分以下になっている。  
2. 佐賀県の有権者が投じる一票に比べて、その価値（当選させる力）が2倍以上になっている。  
3. 有権者数が多い福岡県の方が、一票が選挙結果に及ぼす影響力は大きくなる。  
4. 一票の価値は議員定数ではなく、実際の投票率によってのみ決定される。

問5 一票の格差を是正するために、国会で行われている議席数の調整（「0増10減」など）の背景にある考え方として、最も適切なものはどれですか。（2017年 鳥取公立入試 類似）

1. 国民の意思をより公平に政治に反映させるため、議員一人あたりの有権者数を近づける。  
2. 都市部の人口集中を抑制するため、地方の議席数を意図的に多く保つ。  
3. 特定の政党が有利にならないよう、支持政党の分布に合わせて選挙区を分割する。  
4. 若者の政治関心を高めるため、年齢層が高い選挙区の議員数を削減する。

問6 日本の選挙制度の変遷を振り返ると、1925年には納税額による制限が撤廃されましたが、この時点ではまだ女性に参政権は認められていませんでした。現在の日本において、性別に関係なくすべての国民が政治に参加できる権利が保障されている背景にある考え方を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2022年 徳島公立入試 類似）

1. 個人の経済的な格差や社会的な地位、性別によって参政権を奪ってはならないという、普通選挙の原則。  
2. 1人1票を原則とし、有権者が投じる票の価値に差をつけてはならないという、平等選挙の原則。  
3. 外部からの干渉や圧力を防ぐため、誰に投票したかを他人に知られないようにするという、秘密選挙の原則。  
4. 国民が自らの意思で直接代表者を選出し、他者の代理投票を認めないという、直接選挙の原則。

問7 日本の選挙制度における説明として、空欄にあてはまる適切な語句を選べ。「得票数に応じて、議席を（ ）に対して配分する制度を比例代表制という。」（2018年 熊本県公立入試 類似）

1. 政党 2. 得票数が1位の候補者個人 3. 各都道府県の知事 4. 最高裁判所裁判官

問8 現代の民主政治における「選挙の四原則」をまとめた説明において、すべての有権者が一人一票を持ち、その一票の価値がすべて等しいものとして扱われる原則を何といいますか。（2020年 新潟県公立入試 類似）

1. 平等選挙 2. 普通選挙 3. 秘密選挙 4. 直接選挙

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>死票</b>	小選挙区制では、一つの選挙区で最も多くの票を得た1名のみが議席を獲得します。そのため、落選した候補者に投じられたすべての票は、議席を決定する上では結果に反映されないこととなります。この仕組みは、大政党に有利に働きやすく、政局を安定させる効果がある一方で、少数派の意見が切り捨てられやすいという特徴があります。
問2	<b>答え 1</b> <b>小選挙区制は、1つの選挙区から1人の代表者を選ぶため、大政党に有利になりやすく安定した政権がつくれやすい。</b>	小選挙区制は、各選挙区で最も得票の多い1名のみが当選する仕組みです。このため、第1党となった政党が議席の過半数を確保しやすくなり、政権運営が安定するというメリットがあります。一方で、落選者に投じられた票は「死票」となり、少数派の意見が切り捨てられやすいという側面も持っています。
問3	<b>答え 1</b> <b>一票の格差</b>	有権者が投じる一票の価値に不平等が生じている状態を指します。具体的には、議員1人を選出するのに必要な有権者の数が多い選挙区ほど、一票の価値が相対的に低くなります。これは日本国憲法第14条の「法の下での平等」に反する可能性があるとして、これまでに何度も裁判で争われてきました。
問4	<b>答え 1</b> <b>佐賀県の有権者が投じる一票に比べて、その価値（当選させる力）が半分以下になっている。</b>	議員1人あたりの有権者数が多いほど、1票が当選に寄与する割合（価値）は小さくなります。この事例では、福岡県は佐賀県の約2倍以上の有権者で1人の議員を選ぶことになるため、福岡県の1票の価値は佐賀県の1票の半分未満（約0.48倍）しかありません。このような格差を是正するため、議員定数の配分を見直す「定数是正」が行われます。
問5	<b>答え 1</b> <b>国民の意思をより公平に政治に反映させるため、議員一人あたりの有権者数を近づける。</b>	民主主義の根幹である選挙において、居住地によって一票の価値に大きな差があることは、憲法が保障する「平等権」に反する恐れがあります。そのため、人口が減少した地域（地方）の議席を減らし、人口が増加した地域（都市部）の議席を増やす、あるいは選挙区の区割りを変更するといった措置により、議員一人あたりの有権者数の比率をできるだけ均一に保つことが求められています。
問6	<b>答え 1</b> <b>個人の経済的な格差や社会的な地位、性別によって参政権を奪ってはならないという、普通選挙の原則。</b>	戦前の1925年に制定された普通選挙法では、25歳以上の男子に選挙権が与えられましたが、女性は除外されていました。戦後の1945年の法改正によって、ようやく性別による制限がなくなり、現在の「満18歳以上のすべての国民」という普通選挙の形が完成しました。これは、一部の特権階級だけでなく、すべての国民の意思を政治に反映させるという民主主義の根本的な考え方に基づいています。
問7	<b>答え 1</b> <b>政党</b>	比例代表制は、個人の得票ではなく「政党」の得票数（または政党名と候補者名の合計）に基づいて議席を分配する仕組みです。この制度では、あらかじめ政党が作成した名簿に基づいて当選者が決まるため、議席はまず政党に割り当てられます。
問8	<b>答え 1</b> <b>平等選挙</b>	民主政治における選挙には、重要な四つの原則があります。性別や財産にかかわらず一定の年齢に達した国民全員に選挙権を与えるのが「普通選挙」、投票の秘密を守るのが「秘密選挙」、有権者が候補者を直接選ぶのが「直接選挙」、そして、一人一票を持ちその重みを等しく扱うのが「平等選挙」です。